

温室効果ガス削減計画

1 事業の概要

(1) 事業所の名称

三菱重工業株式会社 三原製作所

(2) 事業所の所在地

広島県 三原市糸崎南一丁目1番1号

(3) 業種

印刷, 製本, 紙工機械製造業(2644)

(4) 事業所位置図

別紙のとおり

2 計画の期間

本計画の期間は、平成25年度を基準年度とし、令和2年度から令和6年度までの5年間とする。

3 計画の基本的な方向

1. 基本方針

三菱重工グループは、社是の第一条に「顧客第一の信念に徹し、社業を通じて社会の進歩に貢献する」と明示し、研究開発、生産活動など事業活動を通じて、社会の発展に寄与することを第一義としている。したがって、社業を遂行するにあたっては、企業が社会の一員であることを自覚し、事業活動の全ての領域で、環境への負荷の低減に努め、持続的発展が可能な社会の構築に貢献する。

2. 行動指針

- 1)環境保全への取り組みを経営の最重要課題のひとつと位置づけ、三菱重工グループを挙げて環境の保全と向上に取り組む。
- 2)環境保全組織体制、環境関連規程等を整備し、環境保全に関する役割と責任を明確にする。
- 3)環境関連法規、条例等を遵守するにとどまらず、必要に応じて自主基準を定めて運用、評価するとともに、環境目的および、目標を設定して、環境保全活動の継続的な改善、向上に努める。
- 4)製品の研究開発、設計、原材料の調達、製造、輸送、使用、サービス、廃棄に至る事業活動の全ての領域で、汚染の防止、省資源、省エネルギー、廃棄物の発生抑制等、環境への負荷の低減に努める。
- 5)環境・エネルギー問題の解決に貢献する高度で信頼性が高い技術や製品の開発、提供に努める。
- 6)本環境方針について、ステークホルダーの理解を得るとともに連携して環境の保全に努める。
- 7)環境教育等を通じて全グループ員の環境意識の向上を図るとともに、環境に関する情報提供等広報活動や社会貢献活動を積極的に推進する。

4 温室効果ガスの排出状況（二酸化炭素換算）

【エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成25 (2013) 年度	令和 1 (2019) 年度
二酸化炭素	16,999	10,379

【非エネルギー起源二酸化炭素】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成 () 年度	令和 () 年度
二酸化炭素		

【その他温室効果ガス】

温室効果ガスの種類	温室効果ガス排出量 (t-CO ₂)	
	基準年度	直近年度
	平成25 (2013) 年度	令和 1 (2019) 年度
メタン	1.62	1.05
一酸化二窒素	6.12	2.48
その他 温室効果 ガス (HFC PFC SF ₆ NF ₃)	7.52 (SF6)	7.52 (SF6)

5 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量 (t-CO₂)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 25 (2013) 年度)		削減目標		目標年度 (令和 6 (2024) 年度)	
	排出量 (a)	削減率 (b)	削減量 (c)	排出見込量 (d)		
エネルギー起源CO ₂	16,999	96.4	16,381	618		
非エネルギー起源CO ₂				0		
メタン				0		
一酸化二窒素				0		
その他 温室効果ガス				0		
温室効果ガス 実排出量総計				0		
温室効果ガス みなし排出量		-		0		
目標設定の考え方	令和6年度より太陽光発電のPPA(電力購入契約)による電力を使用。令和6年度の温室効果ガス排出見込量を見直した。					

※ 削減率 (b) = (c) / (a) × 100 削減量 (c) = (a) - (d)

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標：

実績工数

単位：排出量 (t-CO₂)，原単位数 (kg等)，削減率 (%)

温室効果ガスの種類	基準年度 (平成 25 (2013) 年度)			原単位 削減目標	目標年度 (令和 6 (2024) 年度)		
	排出量 (a)	原単位数 値 (b)	原単位 (c)	削減率 (d)	排出 見込量 (e)	原単位 見込数値 (f)	原単位 見込 (g)
エネルギー起源CO ₂	16,999	63.48	268	96.4	618	63.48	10
非エネルギー起源CO ₂				#VALUE!			
メタン				#VALUE!			
一酸化二窒素				#VALUE!			
その他 温室効果ガス				#VALUE!			
総排出量				#VALUE!			
エネルギー消費原単位 (原油換算kl)	-	-	93	95.5	-	-	4
目標設定の考え方	平成27年度から令和1年度までの削減計画で、エネルギー起源CO ₂ の削減は原単位-35%を達成しており、そこからさらに毎年度原単位1%の削減を目標とする。 令和6年度より太陽光発電のPPA(電力購入契約)による電力を使用。令和6年度の温室効果ガス排出見込量を見直した。						

※ 削減率 (d) = { (c) - (g) } / (c) × 100 原単位 (c) = (a) / (b) 原単位見込 (g) = (e) / (f)

6 温室効果ガスの排出の抑制に係る措置項目及び目標並びに具体的な取組等

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	電気使用量の削減	電気使用量をH25年度比40%削減	1. 高効率変圧器の導入 2. 照明のLED化推進 3. 冷暖房空調の運転期間の設定 4. 省エネパトロールの実施 5. クールビズ・ウォームビズの実施
2	再生可能エネルギーの使用（太陽光発電）	9,591 [tCO2/年]削減 (2024年度)	令和6年度より太陽光発電のPPA(電力購入契約)による電力の使用
3			
4			

※ 「原単位」で作成する場合は、数値目標欄の記載例中、「使用量」を「原単位」に適宜読み替えること。

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組

	項目	数値目標	具体的な取組
1	廃棄物最終処分量の低減	最終処分量0.5%未満	焼却等中間処理後の残渣も含めて処理委託した産業廃棄物のリサイクル処理を行う産業廃棄物処分業者を可能な限り選定する。
2			
3			

※ 環境に配慮した実践的な取組などをされていれば記載してください。

7 温室効果ガス削減計画の推進並びに実施状況の点検及び評価に関する方法等

(1) 推進・点検体制

- 別添2 環境管理体制図を参照願います。
- 三原製作所内の各社単位での管理を基本としている。

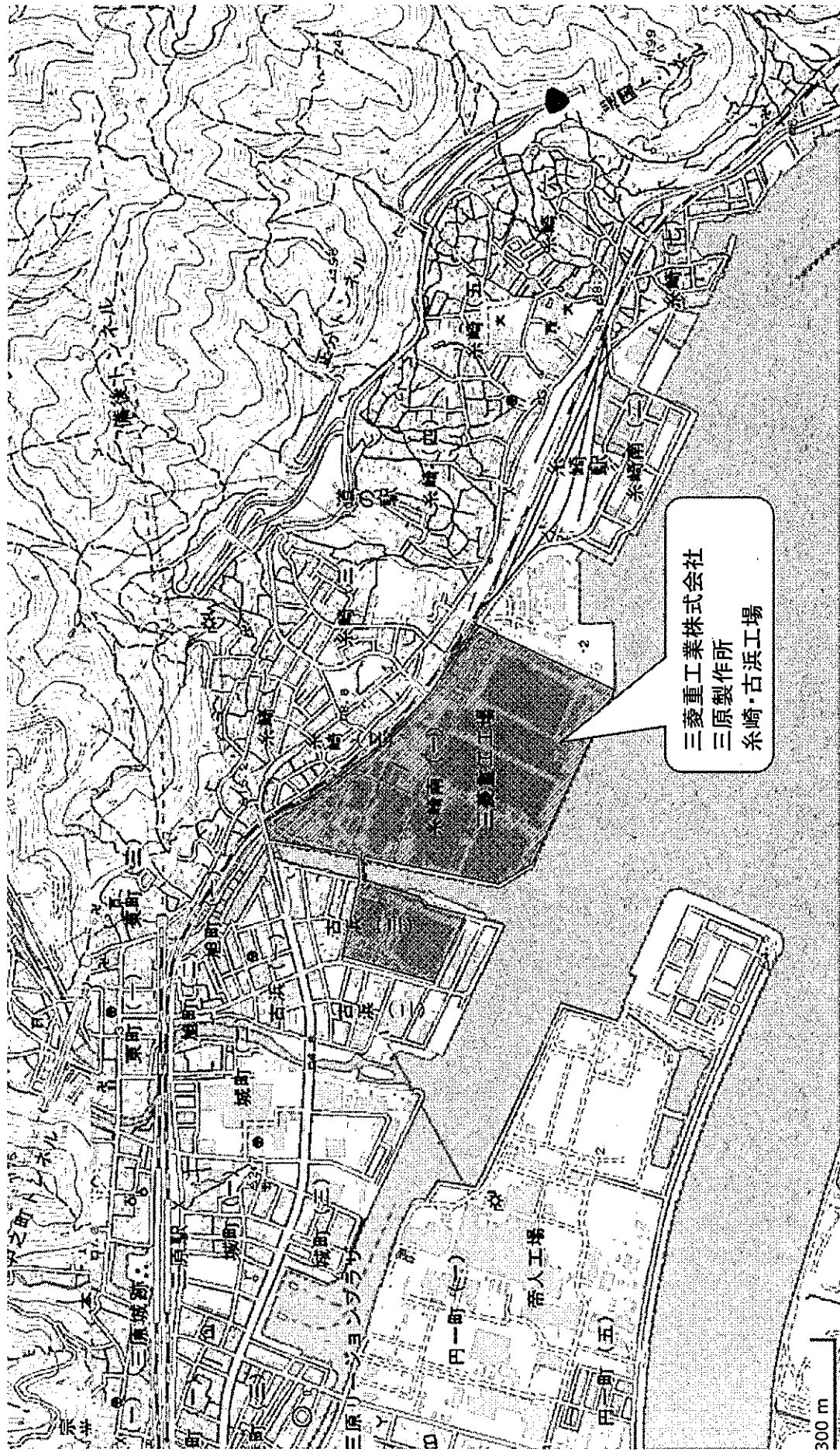
(2) 実施状況の点検・評価

- エネルギーについては、所内の省エネ事務局(施設管理部 広島・三原設備管理G 三原T)の主導により活動を実施し、電力の使用量や燃料の使用量等を把握し、省エネ法に基づいた定期報告を行っている。
- ISO14001の認証を取得している組織は、ISO14001に基づいた活動や実施状況の点検・評価を行っている。

(3) 計画書等の公表

- 当三原製作所のポータルサイトの掲示板に掲載する。(各種エネルギー計画値及び実績値等)

別添1 事業所位置図



三菱重工業株式会社
三原製作所
糸崎・古浜工場

300 m

- ・グループ各社の部門は三製地区内で業務を遂行する部門を対象とする
- ・「◎」印は届出設備を持つ組織
- ・MHI-MS印紙事本 事業管理部 安全環境課 に三原環境をおき、地区環境業務を行う。

